

漢詩「絶句・律詩のきまり」識別 100題ドリル

対象：高校生・大学受験生 | 著作権：誰でも古典塾 (kotennosennsei.com) 無断転載禁止

はじめに

漢詩（近体詩）には、**句数・字数・押韻・対句**のきまりがあります。縦書きの詩（右から左へ一句ずつ）を読んで、ア～エから選びましょう。

詩型	一句の字数	句数
五言絶句	五字	四句
七言絶句	七字	四句
五言律詩	五字	八句
七言律詩	七字	八句

鉄則 - 句数で絶句（四句）／律詩（八句）、字数で五言（五字）／七言（七字）。 - 押韻…ふつう偶数句の末字で韻を踏む。七言は第一句末も踏むことが多い。 - 対句…律詩の頷聯（三・四句）と頸聯（五・六句）が原則。 - 句の名…絶句＝起句・承句・転句・結句／律詩＝首聯・頷聯・頸聯・尾聯。

採点表

部	問題	目標
第1部 基礎	Q1～Q20	18／20
第2部 標準	Q21～Q50	24／30
第3部 応用	Q51～Q80	21／30
第4部 入試	Q81～Q100	13／20

【第1部】基礎（Q1～Q20）

きまり **Q1**. 漢詩のきまりについて、正しいものを後のア～ウ（エ）から選べ。

ア 四句から成る詩を律詩、八句から成る詩を絶句という

イ 四句から成る詩を絶句、八句から成る詩を律詩という

ウ 句の数では区別せず、字数だけで区別する

▶ 答え：イ 句数で分類：四句＝絶句、八句＝律詩。一句の字数で五言・七言に分かれる。

きまり **Q2.** 漢詩のきまりについて、正しいものを後のア～ウ（エ）から選べ。

ア 一句が五字なら七言、七字なら五言という

イ 五言・七言は作者の名で決まる

ウ 一句が五字なら五言、七字なら七言という

▶ 答え：ウ 一句の字数で五言（五字）・七言（七字）に分ける。句数（四句／八句）と組み合わせて詩型が決まる。

詩型 **Q3.** 次の漢詩の形式（詩型）として正しいものを、後のア～エから選べ。

花 夜 処 春
落 来 処 眠
知 風 聞 不
多 雨 啼 覚
少 声 鳥 曉

ア 五言絶句（五字×四句）

イ 七言絶句（七字×四句）

ウ 五言律詩（五字×八句）

エ 七言律詩（七字×八句）

▶ 答え：ア 一句が五字で四句。よって五言絶句。（孟浩然）

詩型 **Q4.** 次の漢詩の形式（詩型）として正しいものを、後のア～エから選べ。

白日依山尽
黄河入海流
欲窮千里目
更上一層樓

ア 五言絶句（五字×四句）

イ 七言絶句（七字×四句）

ウ 五言律詩（五字×八句）

エ 七言律詩（七字×八句）

▶ 答え：ア 一句が五字で四句。よって五言絶句。（王之涣）

詩型 Q5. 次の漢詩の形式（詩型）として正しいものを、後のア～エから選べ。

故人西辞黄鹤楼
烟花三月下扬州
孤帆远影碧空尽
唯见长江天际流

ア 五言絶句（五字×四句）

イ 七言絶句（七字×四句）

ウ 五言律詩（五字×八句）

エ 七言律詩（七字×八句）

▶ 答え：イ 一句が七字で四句。よって七言絶句。（李白）

詩型 Q6. 次の漢詩の形式（詩型）として正しいものを、後のア～エから選べ。

渭城朝雨浥輕塵
客舍青青柳色新
勸君更盡一杯酒
西出陽關無故人

ア 五言絶句（五字×四句）

イ 七言絶句（七字×四句）

ウ 五言律詩（五字×八句）

エ 七言律詩（七字×八句）

▶ 答え：イ 一句が七字で四句。よって七言絶句。（王維）

詩型 Q7. 次の漢詩の形式（詩型）として正しいものを、後のア～エから選べ。

国破山河在
城春草木深
感時花濺淚
恨別鳥驚心
烽火連三月
家書抵萬金
白頭搔更短
渾欲不勝簪

ア 五言絶句（五字×四句）

イ 七言絶句（七字×四句）

ウ 五言律詩（五字×八句）

エ 七言律詩（七字×八句）

▶ 答え：ウ 一句が五字で八句。よって五言律詩。（杜甫）

詩型 Q8. 次の漢詩の形式（詩型）として正しいものを、後のア～エから選べ。

風急天高猿嘯哀
渚清沙白鳥飛回
無辺落木蕭蕭下
不尽長江滾滾來
万里悲秋常作客
百年多病独登台
艱難苦恨繁霜鬢
潦倒新停濁酒杯

ア 五言絶句（五字×四句）

イ 七言絶句（七字×四句）

ウ 五言律詩（五字×八句）

エ 七言律詩（七字×八句）

▶ 答え：エ 一句が七字で八句。よって七言律詩。（杜甫）

きまり **Q9.** 漢詩のきまりについて、正しいものを後のア～ウ（エ）から選べ。

ア 近体詩では、ふつう偶数句の末字で韻を踏む

イ 近体詩では韻を踏まない

ウ 近体詩では、ふつう奇数句の末字で韻を踏む

▶ 答え：ア 近体詩（絶句・律詩）は偶数句末で押韻。七言では第一句末も韻を踏むことが多い。

きまり **Q10.** 漢詩のきまりについて、正しいものを後のア～ウ（エ）から選べ。

ア 律詩に対句の決まりはない

イ 律詩では、第一・二句だけが対句になる

ウ 律詩では、ふつう第三・四句と第五・六句が対句になる

▶ 答え：ウ 律詩は八句を二句ずつ首聯・頷聯・頸聯・尾聯と呼び、頷聯（三・四句）と頸聯（五・六句）を対句にするのが原則。

詩型 **Q11.** 次の漢詩の形式（詩型）として正しいものを、後のア～エから選べ。

千山鳥飛絶
万径人蹤滅
孤舟蓑笠翁
独釣寒江雪

ア 五言絶句（五字×四句）

イ 七言絶句（七字×四句）

ウ 五言律詩（五字×八句）

エ 七言律詩（七字×八句）

▶ 答え：ア 一句が五字で四句。よって五言絶句。（柳宗元）

詩型 Q12. 次の漢詩の形式（詩型）として正しいものを、後のア～エから選べ。

少小離家老大回
鄉音無改鬢毛衰
兒童相見不相識
笑問客從何処來

ア 五言絶句（五字×四句）

イ 七言絶句（七字×四句）

ウ 五言律詩（五字×八句）

エ 七言律詩（七字×八句）

▶ 答え：イ 一句が七字で四句。よって七言絶句。（賀知章）

詩型 Q13. 次の漢詩の形式（詩型）として正しいものを、後のア～エから選べ。

朝辞白帝彩云间
千里江陵一日还
两岸猿声啼不住
轻舟已过万重山

ア 五言絶句（五字×四句）

イ 七言絶句（七字×四句）

ウ 五言律詩（五字×八句）

エ 七言律詩（七字×八句）

▶ 答え：イ 一句が七字で四句。よって七言絶句。（李白）

詩型 Q14. 次の漢詩の形式（詩型）として正しいものを、後のア～エから選べ。

青山横北郭
白水遶东城
此地一為別
孤蓬万里征
浮雲遊子意
落日故人情
揮手自茲去
蕭蕭班馬鳴

ア 五言絶句（五字×四句）

イ 七言絶句（七字×四句）

ウ 五言律詩（五字×八句）

エ 七言律詩（七字×八句）

▶ 答え：ウ 一句が五字で八句。よって五言律詩。（李白）

句の名称 Q15. 絶句の各句（第一～四句）の呼び名を選べ。

春眠不覺曉
處處聞啼鳥
夜來風雨聲
花落知多少

ア 首聯・頷聯・頸聯・尾聯

イ 序・破・急

ウ 起句・承句・転句・結句

▶ 答え：ウ 絶句の四句は順に起句・承句・転句・結句と呼ぶ。(春晓・孟浩然)

句の名称 Q16. 律詩の二句ずつのまとまりの呼び名を選べ。

国破山河在
城春草木深
感時花濺淚
恨別鳥驚心
烽火連三月
家書抵萬金
白頭搔更短
渾欲不勝簪

ア 起句・承句・転句・結句

イ 首聯・頷聯・頸聯・尾聯

ウ 上句・中句・下句

▶ 答え：イ 律詩の八句は二句ずつ首聯・頷聯・頸聯・尾聯と呼ぶ。(春望・杜甫)

詩型 Q17. 次の漢詩の形式（詩型）として正しいものを、後のア～エから選べ。

空山不見人
但聞人語響
返景入深林
復照青苔上

ア 五言絶句（五字×四句）

イ 七言絶句（七字×四句）

ウ 五言律詩（五字×八句）

エ 七言律詩（七字×八句）

▶ 答え：ア 五字×四句で五言絶句。（鹿柴・王维）

句の名称 Q18. 第七・八句のまとまりの呼び名を選べ。

青山横北郭
白水遶东城
此地一为别
孤蓬万里征
浮雲遊子意
落日故人情
揮手自兹去
蕭蕭班馬鳴

ア 第七・八句＝首聯

イ 第七・八句＝領聯

ウ 第七・八句＝尾聯

▶ 答え：ウ 律詩の第七・八句は尾聯（詩を締めくくる）。（送友人・李白）

きまり Q19. 漢詩のきまりについて、正しいものを後のア～ウ（エ）から選べ。

ア 対句は、同じ語をくり返すことである

イ 対句は、二つの句が文法・意味の上で対応して並ぶ技法である

ウ 対句は、句末の字をそろえることである

▶ 答え：イ 対句＝相対する二句が、品詞・組み立て・意味の上で対応して並ぶ表現。律詩の頷聯・頸聯で用いる。

句の名称 Q20. 第一句の呼び名として正しいものを選べ。

独釣寒江雪
孤舟蓑笠翁
万径人踪滅
千山鳥飛絕

ア 第一句＝起句

イ 第一句＝転句

ウ 第一句＝結句

▶ 答え：ア 絶句の第一句は起句（詩を起こす）。(江雪・柳宗元)

押韻 Q21. 次の漢詩で韻を踏んでいる字を、すべて正しく挙げたものを後のア～ウから選べ。

花落知多少
夜来風雨声
処処聞啼鳥
春眠不觉晓

ア 晓・鳥・少

イ 眠・鳥・声

ウ 晓・声・少

▶ 答え：ア 春晓。偶数句末「鳥」「少」＋第一句末「晓」で韻を踏む（首句入韻）。韻は晓・鳥・少。

押韻 Q22. 次の漢詩で韻を踏んでいる字を、すべて正しく挙げたものを後のア～ウから選べ。

白日依山尽
黄河入海流
欲窮千里目
更上一層樓

ア 尽・流

イ 山・樓

ウ 流・樓

▶ 答え：ウ 登鶴鵲樓。第二句末「流」・第四句末「樓」で押韻。五言は偶数句末が原則。

押韻 Q23. 次の漢詩で韻を踏んでいる字を、すべて正しく挙げたものを後のア～ウから選べ。

千山鳥飛絕
萬徑人蹤滅
孤舟蓑笠翁
獨釣寒江雪

ア 絶・滅

イ 絶・滅・雪

ウ 滅・雪

▶ 答え：イ 江雪は入声（仄声）韻の絶句で首句入韻。第一句末「絶」・第二句末「滅」・第四句末「雪」の三字で押韻する。

押韻 Q24. 次の漢詩で韻を踏んでいる字を、すべて正しく挙げたものを後のア～ウから選べ。

故人西辞黃鶴樓
煙花三月下揚州
孤帆遠影碧空盡
唯見長江天際流

ア 樓・月・流

イ 辞・州・流

ウ 樓・州・流

▶ 答え：ウ 黃鶴樓送孟浩然之廣陵。第一句末「樓」・第二句末「州」・第四句末「流」で押韻（七言の首句入韻）。

押韻 Q25. 次の漢詩で韻を踏んでいる字を、すべて正しく挙げたものを後のア～ウから選べ。

渭城朝雨浥輕塵
客舍青青柳色新
勸君更盡一杯酒
西出陽關無故人

ア 塵・新・人

イ 塵・酒・人

ウ 城・新・人

▶ 答え：ア 送元二使安西。第一句末「塵」・第二句末「新」・第四句末「人」で押韻。

詩型 Q26. 次の漢詩の形式（詩型）として正しいものを、後のア～エから選べ。

何日是帰年
今春看又過
山青花欲然
江碧鳥逾白

ア 五言絶句（五字×四句）

イ 七言絶句（七字×四句）

ウ 五言律詩（五字×八句）

エ 七言律詩（七字×八句）

▶ 答え：ア 五字×四句で五言絶句。（絶句・杜甫）

詩型 Q27. 次の漢詩の形式（詩型）として正しいものを、後のア～エから選べ。

日照香炉生紫煙
遥看瀑布挂前川
飛流直下三千尺
疑是銀河落九天

ア 五言絶句（五字×四句）

イ 七言絶句（七字×四句）

ウ 五言律詩（五字×八句）

エ 七言律詩（七字×八句）

▶ 答え：イ 七字×四句で七言絶句。（望廬山瀑布・李白）

詩型 Q28. 次の漢詩の形式（詩型）として正しいものを、後のア～エから選べ。

渡遠荊門外
來從楚國遊
山隨平野盡
江入大荒流
月下飛天鏡
雲生結海樓
仍憐故鄉水
萬里送行舟

ア 五言絶句（五字×四句）

イ 七言絶句（七字×四句）

ウ 五言律詩（五字×八句）

エ 七言律詩（七字×八句）

▶ 答え：ウ 五字×八句で五言律詩。（渡荊門送別・李白）書き下し「仍ほ憐れむ故郷の水」＝やはりいとお
しい、故郷から流れてきた川の水が（万里の旅をゆく私の舟を送ってくれる）。

詩型 Q29. 次の漢詩の形式（詩型）として正しいものを、後のア～エから選べ。

月落烏啼霜滿天
江楓漁火對愁眠
姑蘇城外寒山寺
夜半鐘聲到客船

ア 五言絶句（五字×四句）

イ 七言絶句（七字×四句）

ウ 五言律詩（五字×八句）

エ 七言律詩（七字×八句）

▶ 答え：イ 七字×四句で七言絶句。（楓橋夜泊・張繼）

詩型 Q30. 次の漢詩の形式（詩型）として正しいものを、後のア～エから選べ。

葡萄美酒夜光杯
欲飲琵琶馬上催
醉臥沙場君莫笑
古來征戰幾人回

ア 五言絶句（五字×四句）

イ 七言絶句（七字×四句）

ウ 五言律詩（五字×八句）

エ 七言律詩（七字×八句）

▶ 答え：イ 七字×四句で七言絶句。（涼州詞・王翰）

押韻 Q31. 次の漢詩で韻を踏んでいる字を、すべて正しく挙げたものを後のア～ウから選べ。

朝辞白帝彩云间
千里江陵一日还
两岸猿声啼不住
轻舟已过万重山

ア 間・住・山

イ 帝・還・山

ウ 間・還・山

▶ 答え：ウ 早発白帝城。第一句末「間」・第二句末「還」・第四句末「山」で押韻。

押韻 Q32. 次の漢詩で韻を踏んでいる字を、すべて正しく挙げたものを後のア～ウから選べ。

少小離家老大回
鄉音無改鬢毛衰
兒童相見不相識
笑問客從何處來

ア 回・衰・来

イ 家・衰・来

ウ 回・識・来

▶ 答え：ア 回郷偶書。第一句末「回」・第二句末「衰」・第四句末「来」で押韻。

押韻 Q33. 次の漢詩で韻を踏んでいる字を、すべて正しく挙げたものを後のア～ウから選べ。

日照香炉生紫煙
遙看瀑布挂前川
飛流直下三千尺
疑是銀河落九天

ア 煙・川・天

イ 炉・川・天

ウ 煙・尺・天

▶ 答え：ア 望廬山瀑布。第一句末「煙」・第二句末「川」・第四句末「天」で押韻。

押韻 Q34. 次の漢詩で韻を踏んでいる字を、すべて正しく挙げたものを後のア～ウから選べ。

月落烏啼霜滿天
江楓漁火對愁眠
姑蘇城外寒山寺
夜半鐘聲到客船

ア 天・寺・船

イ 啼・眠・船

ウ 天・眠・船

▶ 答え：ウ 楓橋夜泊。第一句末「天」・第二句末「眠」・第四句末「船」で押韻。

押韻 Q35. 次の漢詩で韻を踏んでいる字を、すべて正しく挙げたものを後のア～ウから選べ。

国破山河在
城春草木深
感時花濺淚
恨別鳥驚心
烽火連三月
家書抵萬金
白頭搔更短
渾欲不勝簪

ア 在・心・金・簪

イ 深・心・金・簪

ウ 深・淚・金・簪

▶ 答え：イ 春望（五言律詩）。偶数句末の深・心・金・簪で押韻。第一句末「在」は韻を踏まない。

詩型 Q36. 次の漢詩の形式（詩型）として正しいものを、後のア～エから選べ。

独在異郷為異客
每逢佳節倍思親
遙知兄弟登高處
遍插茱萸少一人

ア 五言絶句（五字×四句）

イ 七言絶句（七字×四句）

ウ 五言律詩（五字×八句）

エ 七言律詩（七字×八句）

▶ 答え：イ 七字×四句で七言絶句。（九月九日憶山東兄弟・王維）

詩型 Q37. 次の漢詩の形式（詩型）として正しいものを、後のア～エから選べ。

丞相祠堂何処尋
錦官城外柏森森
映階碧草自春色
隔葉黃鸝空好音
三顧頻煩天下計
兩朝開濟老臣心
出師未捷身先死
長使英雄淚滿襟

ア 五言絶句（五字×四句）

イ 七言絶句（七字×四句）

ウ 五言律詩（五字×八句）

エ 七言律詩（七字×八句）

▶ 答え：エ 七字×八句で七言律詩。(蜀相・杜甫) 書き下し「丞相の祠堂何れの処にか尋ねん、錦官城外柏森森たり」＝蜀の丞相(諸葛亮)をまつる祠堂はどこに訪ねようか、錦官城(成都)の外の、柏(ヒノキの仲間)の木がうっそうと茂る所だ。

詩型 Q38. 次の漢詩の形式(詩型)として正しいものを、後のア～エから選べ。

明月来相照
深林人不知
弹琴复长啸
独坐幽篁裏

ア 五言絶句(五字×四句)

イ 七言絶句(七字×四句)

ウ 五言律詩(五字×八句)

エ 七言律詩(七字×八句)

▶ 答え：ア 五字×四句で五言絶句。(竹里館・王維) 書き下し「深林人知らず、明月来たりて相照らす」＝奥深い竹林にいる私を人は知らないが、明月がやって来て照らしてくれる。

押韻 Q39. 次の漢詩で韻を踏んでいる字を、すべて正しく挙げたものを後のア～ウから選べ。

古来征战几人回
醉卧沙场君莫笑
欲饮琵琶马上催
葡萄美酒夜光杯

ア 杯・笑・回

イ 杯・催・回

ウ 光・催・回

▶ 答え：イ 涼州詞。第一句末「杯」・第二句末「催」・第四句末「回」で押韻。

押韻 Q40. 次の漢詩で韻を踏んでいる字を、すべて正しく挙げたものを後のア～ウから選べ。

蕭蕭班馬鳴
揮手自茲去
落日故人情
浮雲遊子意
孤蓬万里征
此地一為別
白水遶東城
青山橫北郭

ア 城・征・情・鳴

イ 城・別・情・鳴

ウ 郭・征・情・鳴

▶ 答え：ア 送友人（五言律詩）。偶数句末の城・征・情・鳴で押韻。

句の名称 Q41. 第一句の呼び名として正しいものを選べ。

更上一層樓
欲窮千里目
黃河入海流
白日依山盡

ア 第一句＝結句

イ 第一句＝転句

ウ 第一句＝起句

▶ 答え：ウ 絶句の第一句は起句。（登鶴鵲樓）

句の名称 Q42. 第三句の呼び名として正しいものを選べ。

朝辞白帝彩云间
千里江陵一日还
两岸猿声啼不住
轻舟已过万重山

ア 第三句＝起句

イ 第三句＝承句

ウ 第三句＝転句

▶ 答え：ウ 絶句の第三句は転句（内容が転じる）。（早発白帝城）

きまり Q43. 漢詩のきまりについて、正しいものを後のア～ウ（エ）から選べ。

ア 七言の詩は、第一句末でも韻を踏むことが多い

イ 七言の詩は奇数句末すべてで韻を踏む

ウ 七言の詩は、絶対に第一句末で韻を踏まない

▶ 答え：ア 七言（絶句・律詩）は偶数句末に加え、第一句末でも押韻するのが普通（首句入韻）。

内容 Q44. 次の漢詩の主題・内容として最も適切なものを、後のア～ウから選べ。

春眠不觉晓
处处闻啼鸟
夜来风雨声
花落知多少

ア 友を見送る別れのつらさ

イ 戦に明け暮れる兵士の嘆き

ウ 春の朝のまどろみと、夜の雨で散った花への思い

▶ 答え：ウ 春暁。春の眠りの心地よさと、ふと気づく落花への淡い愛惜。

内容 Q45. 次の漢詩の主題・内容として最も適切なものを、後のア～ウから選べ。

更上一層楼
欲窮千里目
黄河入海流
白日依山尽

ア 故郷を離れる悲しみ

イ 酒に酔う楽しさ

ウ より遠くを見ようと、さらに高い所へ登る向上心

▶ 答え：ウ 登鶴鵲楼。「欲窮千里目、更上一層楼」＝もっと遠くを見るため、もう一階上へ。向上の心。

詩型 Q46. 次の漢詩の形式（詩型）として正しいものを、後のア～エから選べ。

李白乘舟将欲行
忽聞岸上踏歌声
桃花潭水深千尺
不及汪倫送我情

ア 五言絶句（五字×四句）

イ 七言絶句（七字×四句）

ウ 五言律詩（五字×八句）

エ 七言律詩（七字×八句）

▶ 答え：イ 七字×四句で七言絶句。（贈汪倫・李白）書き下し「桃花潭水深さ千尺」＝桃花潭の水は深さ千尺もある（それでも汪倫が私を見送ってくれる情の深さには及ばない、と結ぶ）。

押韻 Q47. 次の漢詩で韻を踏んでいる字を、すべて正しく挙げたものを後のア～ウから選べ。

独在異郷為異客
每逢佳節倍思親
遙知兄弟登高処
遍插茱萸少一人

ア 親・人

イ 親・処

ウ 客・人

▶ 答え：ア 九月九日憶山東兄弟。第二句末「親」・第四句末「人」で押韻。第一句末「客」は韻を踏まない。

句の名称 Q48. 第三・四句のまとまりの呼び名を選べ。

国破山河在
城春草木深
感時花濺淚
恨別鳥驚心
烽火連三月
家書抵萬金
白頭搔更短
渾欲不勝簪

ア 第三・四句＝首聯

イ 第三・四句＝領聯

ウ 第三・四句＝尾聯

▶ 答え：イ 律詩の第三・四句は領聯。（春望）対句になる。

詩型

Q49. 次の漢詩の形式（詩型）として正しいものを、後のア～エから選べ。

青海長雲暗雪山
孤城遙望玉門關
黃沙百戰穿金甲
不破樓蘭終不還

ア 五言絶句（五字×四句）

イ 七言絶句（七字×四句）

ウ 五言律詩（五字×八句）

エ 七言律詩（七字×八句）

▶ 答え：イ 七字×四句で七言絶句。（従軍行・王昌齡）書き下し「孤城遙かに望む玉門関」＝辺境にぽつんと立つ城から、はるかに玉門関を望む。

句の名称

Q50. 第二句の呼び名として正しいものを選べ。

少小離家老大回
鄉音無改鬢毛衰
兒童相見不相識
笑問客從何処來

ア 第二句＝承句

イ 第二句＝転句

ウ 第二句＝結句

▶ 答え：ア 絶句の第二句は承句（起句を承ける）。（回郷偶書・賀知章）

対句 Q51. 次の漢詩で対句になっている句の組み合わせを、後のア～ウから選べ。

国破山河在
城春草木深
感時花濺淚
恨別鳥驚心
烽火連三月
家書抵萬金
白頭搔更短
渾欲不勝簪

ア 第一・二句と第七・八句

イ 第二・三句と第六・七句

ウ 第一・二句、第三・四句、第五・六句

▶ 答え：ウ 春望（五言律詩）。首聯（国破山河在／城春草木深）・頷聯（感時花濺淚／恨別鳥驚心）・頸聯（烽火連三月／家書抵萬金）が対句。律詩の原則の頷聯・頸聯に加えて、首聯も対句で、書き下し「国破れて山河在り、城春にして草木深し」＝「国破」と「城春」、「山河在」と「草木深」が対応する。尾聯は対句でない。

対句 Q52. 次の漢詩で対句になっている句の組み合わせを、後のア～ウから選べ。

風急天高猿嘯哀
渚清沙白鳥飛回
無邊落木蕭蕭下
不盡長江滾滾來
萬里悲秋常作客
百年多病獨登台
艱難苦恨繁霜鬢
潦倒新停濁酒杯

ア 対句はない

イ 第一・二句だけ

ウ 第一・二句、第三・四句、第五・六句、第七・八句（四つの聯すべて）

▶ 答え：ウ 登高（七言律詩）。首聯・頷聯・頸聯・尾聯のすべてが対句（全篇対句）で名高い。首聯は書き下し「風急に天高くして猿嘯哀し、渚清く沙白くして鳥飛び回る」＝「風急」と「渚清」、「天高」と「沙白」、「猿嘯哀」と「鳥飛回」が対応する。頷聯（無辺落木蕭蕭下／不尽長江滾滾来）・頸聯（万里悲秋常作客／百年多病独登台）・尾聯（艱難苦恨繁霜鬢／潦倒新停濁酒杯）も対句。

対句 Q53. 次の漢詩で対句になっている句の組み合わせを、後のア～ウから選べ。

王孫自可留 随意春芳歇 蓮動下漁舟 竹喧歸浣女 清泉石上流 明月松間照 天氣晚來秋 空山新雨後

ア 第三・四句と第五・六句

イ 第七・八句だけ

ウ 対句はない

▶ 答え：ア 山居秋暝（王維・五言律詩）。頷聯（明月松間照／清泉石上流）と頸聯（竹喧歸浣女／蓮動下漁舟）が対句。書き下し「明月松間に照り、清泉石上に流る」＝「明月」と「清泉」、「松間」と「石上」、「照」と「流」が対応する。律詩の原則どおりの形。

対句 Q54. 次の漢詩で対句になっている句の組み合わせを、後のア～ウから選べ。

更上一層樓 欲窮千里目 黃河入海流 白日依山盡

ア 第二・三句

イ 対句はない

ウ 第一・二句と第三・四句

▶ 答え：ウ 登鸛鵲樓。白日依山盡／黃河入海流、欲窮千里目／更上一層樓。全句が対句になる名作。

対句 Q55. 次の漢詩で対句になっている句の組み合わせを、後のア～ウから選べ。

独釣寒江雪
孤舟蓑笠翁
万径人踪灭
千山鸟飞绝

ア 第一・二句

イ 第三・四句

ウ 対句はない

▶ 答え：ア 江雪。千山鳥飛絶／万径人蹤滅が対句（「千山」対「万径」など）。

内容 Q56. 次の漢詩の主題・内容として最も適切なものを、後のア～ウから選べ。

独釣寒江雪
孤舟蓑笠翁
万径人踪灭
千山鸟飞绝

ア 戦に勝った喜び

イ 雪の中、ただ一人釣り糸を垂れる孤高の境地

ウ 春の野で遊ぶ楽しさ

▶ 答え：イ 江雪。人影も鳥もない雪景色に、笠をかぶった老人がひとり釣りをする。俗を離れた孤高。

内容 Q57. 次の漢詩の主題・内容として最も適切なものを、後のア～ウから選べ。

故人西辞黃鶴樓
煙花三月下揚州
孤帆遠影碧空盡
唯見長江天際流

ア 敵と戦う決意

イ 旧友を見送り、遠ざかる帆をいつまでも見つめる惜別

ウ 酒宴の陽気さ

▶ 答え：イ 黃鶴樓送孟浩然之廣陵。揚州へ去る友の舟が消えるまで見送る。深い別れの情。

内容 Q58. 次の漢詩の主題・内容として最も適切なものを、後のア～ウから選べ。

渭城朝雨浥輕塵
客舍青青柳色新
勸君更盡一杯酒
西出陽關無故人

ア 旅立つ友に、もう一杯と勧める別れの情

イ 故郷へ帰る喜び

ウ 戦場の勇ましさ

▶ 答え：ア 送元二使安西。「西のかた陽関を出づれば故人無からん」＝この先は親しい人もいない。別れの酒。

内容 Q59. 次の漢詩の主題・内容として最も適切なものを、後のア～ウから選べ。

少小離家老大回
鄉音無改鬢毛衰
兒童相見不相識
笑問客從何處來

ア 若くして出世した喜び

イ 戦に敗れた無念

ウ 年老いて故郷に帰り、子どもに他所者と扱われる感慨

▶ 答え：ウ 回郷偶書。故郷の言葉は変わらぬが髪は白い。子どもに「どちらから」と問われる。歳月の感慨。

内容 Q60. 次の漢詩の主題・内容として最も適切なものを、後のア～ウから選べ。

朝辞白帝彩雲間
千里江陵一日還
兩岸猿声啼不住
輕舟已過万重山

ア 山に登るつらさ

イ 長江を一気に下る舟の、軽やかで爽快な速さ

ウ 雨に降られた旅の苦労

▶ 答え：イ 早発白帝城。兩岸の猿声が鳴きやまぬうちに舟は万重の山を過ぎる。下りのスピード感。

内容 Q61. 次の漢詩の主題・内容として最も適切なものを、後のア～ウから選べ。

日照香炉生紫煙
遙看瀑布挂前川
飛流直下三千尺
疑是銀河落九天

ア 友との別れ

イ 静かな夜の寂しさ

ウ 天から流れ落ちるかのような廬山の滝の雄大さ

▶ 答え：ウ 望廬山瀑布。「飛流直下三千尺、疑ふらくは是れ銀河の九天より落つるか」と。滝の壮大な誇張表現。

内容 Q62. 次の漢詩の主題・内容として最も適切なものを、後のア～ウから選べ。

月落烏啼霜滿天
江楓漁火對愁眠
姑蘇城外寒山寺
夜半鐘聲到客船

ア 旅の夜のものの寂しさと、響いてくる寒山寺の鐘

イ 都の華やかな宴

ウ 戦勝の凱旋

▶ 答え：ア 楓橋夜泊。月落ち烏鳴く霜の夜、舟で眠れぬ旅人に夜半の鐘が届く。旅愁。

内容 Q63. 次の漢詩の主題・内容として最も適切なものを、後のア～ウから選べ。

独在異郷為異客
每逢佳節倍思親
遙知兄弟登高処
遍插茱萸少一人

ア 戦に出る覚悟

イ 重陽の節句に、故郷の兄弟を一人離れて思う心

ウ 春の行楽の喜び

▶ 答え：イ 九月九日憶山東兄弟。「独り異郷に在りて異客と為る」。節句に肉親を思う望郷の情。

内容 Q64. 次の漢詩の主題・内容として最も適切なものを、後のア～ウから選べ。

葡萄美酒夜光杯
欲飲琵琶馬上催
醉臥沙場君莫笑
古來征戰幾人回

ア 故郷の春ののどかさ

イ 辺境の宴の華やぎと、戦の無常をないまぜにした思い

ウ 出世への意欲

▶ 答え：イ 涼州詞。「酔ひて沙場に臥す君笑ふこと莫かれ、古來征戰幾人が回る」。戦地の刹那と無常。

押韻 Q65. 次の漢詩で韻を踏んでいる字を、すべて正しく挙げたものを後のア～ウから選べ。

何日是歸年
今春看又過
山青花欲然
江碧鳥逾白

ア 白・年

イ 然・過

ウ 然・年

▶ 答え：ウ 絶句（杜甫）。第二句末「然」・第四句末「年」で押韻。

押韻 Q66. 次の漢詩で韻を踏んでいる字を、すべて正しく挙げたものを後のア～ウから選べ。

復照青苔上
返景入深林
但聞人語響
空山不見人

ア 響・上

イ 林・上

ウ 人・響

▶ 答え：ア 鹿柴。第二句末「響」・第四句末「上」で押韻。

押韻 Q67. 次の漢詩で韻を踏んでいる字を、すべて正しく挙げたものを後のア～ウから選べ。

風急天高猿嘯哀
渚清沙白鳥飛回
無辺落木蕭蕭下
不尽長江滾滾來
万里悲秋常作客
百年多病独登台
艱難苦恨繁霜鬢
潦倒新停濁酒杯

ア 哀・回・客・台・杯

イ 哀・下・来・台・杯

ウ 哀・回・来・台・杯

▶ 答え：ウ 登高（七言律詩）。第一句末「哀」＋偶数句末の回・来・台・杯で押韻。

対句 Q68. 次の漢詩で対句になっている句の組み合わせを、後のア～ウから選べ。

江碧鳥逾白
山青花欲然
今春看又過
何日是歸年

ア 第一・二句

イ 第三・四句

ウ 対句はない

▶ 答え：ア 絶句（杜甫）。江碧鳥逾白／山青花欲然が対句（色の対比が鮮やか）。

詩型 Q69. 次の漢詩の形式（詩型）として正しいものを、後のア～エから選べ。

遠上寒山石径斜
白雲生処有人家
停車坐愛楓林晚
霜葉紅於二月花

ア 五言絶句（五字×四句）

イ 七言絶句（七字×四句）

ウ 五言律詩（五字×八句）

エ 七言律詩（七字×八句）

▶ 答え：イ 七字×四句で七言絶句。（山行・杜牧）第三句の後半「坐愛楓林晚」は、書き下し「坐ろに愛す楓林の晩」＝なんとなく心ひかれる、夕暮れの楓の林に。「坐」は「そぞろに（なんとなく）」と読む。

詩型 Q70. 次の漢詩の形式（詩型）として正しいものを、後のア～エから選べ。

今夜鄜州月
閨中只独看
遥憐小兒女
未解憶長安
香霧雲鬟濕
清輝玉臂寒
何時倚虛幌
双照淚痕乾

ア 五言絶句（五字×四句）

イ 七言絶句（七字×四句）

ウ 五言律詩（五字×八句）

エ 七言律詩（七字×八句）

▶ 答え：ウ 五字×八句で五言律詩。（月夜・杜甫）書き下し「今夜鄜州の月、閨中只だ独り看るならん」＝今夜の鄜州の月を、妻は部屋でただひとり眺めているだろう。

句の名称 **Q71.** 第四句の呼び名として正しいものを選び。

故人西辞黃鶴樓
煙花三月下揚州
孤帆遠影碧空盡
唯見長江天際流

ア 第四句＝起句

イ 第四句＝承句

ウ 第四句＝結句

▶ 答え：ウ 絶句の第四句は結句（詩を締めくくる）。（黃鶴樓送孟浩然之廣陵）

句の名称 **Q72.** 第五・六句のまとまりの呼び名を選び。

風急天高猿嘯哀
渚清沙白鳥飛回
無邊落木蕭蕭下
不盡長江滾滾來
萬里悲秋常作客
百年多病獨登台
艱難苦恨繁霜鬢
潦倒新停濁酒杯

ア 第五・六句＝頸聯

イ 第五・六句＝頷聯

ウ 第五・六句＝首聯

▶ 答え：ア 律詩の第五・六句は頸聯。（登高）対句になる。

内容 **Q73.** 次の漢詩の主題・内容として最も適切なものを、後のア～ウから選び。

空山不見人
但聞人語響
返景入深林
復照青苔上

ア 人気のない山に夕日が射す、静かで奥深い情景

イ 都の喧噪

ウ 海の荒々しさ

▶ 答え：ア 鹿柴。人の姿は見え声だけが響き、夕日が苔を照らす。王維の静寂・幽玄の世界。

内容 Q74. 次の漢詩の主題・内容として最も適切なものを、後のア～ウから選べ。

江碧鳥逾白
山青花欲然
今春看又過
何日是歸年

ア 戦の悲惨さ

イ 美しい春景色の中でわく望郷の念

ウ 出世の喜び

▶ 答え：イ 絶句（杜甫）。鮮やかな江山の春。「今春看す又過ぐ、何れの日か是れ歸年ならん」＝今年も春が過ぎる、いつ帰れるのか。

詩型 Q75. 次の漢詩の形式（詩型）として正しいものを、後のア～エから選べ。

煙籠寒水月籠沙
夜泊秦淮近酒家
商女不知亡國恨
隔江猶唱後庭花

ア 五言絶句（五字×四句）

イ 七言絶句（七字×四句）

ウ 五言律詩（五字×八句）

エ 七言律詩（七字×八句）

▶ 答え：イ 七字×四句で七言絶句。（泊秦淮・杜牧）書き下し「商女は知らず亡国の恨」＝歌姫たちは国が滅んだ恨みも知らずに、（亡国の歌「後庭花」を）歌っている。

押韻 Q76. 次の漢詩で韻を踏んでいる字を、すべて正しく挙げたものを後のア～ウから選べ。

離離原上草
一歲一枯榮
野火燒不盡
春風吹又生
遠芳侵古道
晴翠接荒城
又送王孫去
萋萋滿別情

ア 榮・生・城・情

イ 榮・盡・城・情

ウ 草・生・道・情

▶ 答え：ア 賦得古原草送別（白居易・五言律詩）。偶数句末の榮・生・城・情で押韻。第三句末「盡」など奇数句末は韻を踏まない。書き下し「野火焼けども尽きず、春風吹いて又生ず」＝野火に焼かれても草は絶えず、春風が吹くとまた生えてくる。

対句 Q77. 次の漢詩で対句になっている句の組み合わせを、後のア～ウから選べ。

好雨知時節
當春乃發生
隨風潛入夜
潤物細無聲
野徑雲俱黑
江船火獨明
曉看紅濕處
花重錦官城

ア 第一・二句のみ

イ 第三・四句と第五・六句

ウ 対句はない

▶ 答え：イ 春夜喜雨（杜甫・五言律詩）。頷聯（隨風潛入夜／潤物細無聲）と頸聯（野徑雲俱黑／江船火獨明）が対句。書き下し「野徑雲俱に黒く、江船火獨り明らかなり」＝「野徑」と「江船」、「雲」と「火」、「黒」と「明」が対応する。首聯・尾聯は対句でない。

句の名称 Q78. 第二句の呼び名として正しいものを選び。

江碧鳥逾白
山青花欲然
今春看又過
何日是歸年

ア 第二句＝転句

イ 第二句＝承句

ウ 第二句＝結句

▶ 答え：イ 絶句の第二句は承句（起句を承ける）。(絶句・杜甫)

詩型 Q79. 次の漢詩の形式（詩型）として正しいものを、後のア～エから選べ。

江清月近人
野曠天低樹
日暮客愁新
移舟泊煙渚

ア 五言絶句（五字×四句）

イ 七言絶句（七字×四句）

ウ 五言律詩（五字×八句）

エ 七言律詩（七字×八句）

▶ 答え：ア 五字×四句で五言絶句。（宿建德江・孟浩然）書き下し「日暮れて客愁新たなり」＝日が暮れて、旅の愁いが新たにわいてくる。

内容 Q80. 次の漢詩の主題・内容として最も適切なものを、後のア～ウから選べ。

国破山河在
城春草木深
感時花濺淚
恨別鳥驚心
烽火連三月
家書抵萬金
白頭搔更短
渾欲不勝簪

ア 出世した誇り

イ 春の行楽の楽しさ

ウ 戦乱の世を憂い、離ればなれの家族を思う嘆き

▶ 答え：ウ 春望。「国破れて山河在り」。戦乱で荒れた都に春が来る悲しみ、家族の手紙を待つ思い。

詩型 Q81. 次の漢詩の形式（詩型）として正しいものを、後のア～エから選べ。

朝回日日典春衣
每日江頭盡醉歸
酒債尋常行處有
人生七十古來稀
穿花蛺蝶深深見
點水蜻蜓款款飛
傳語風光共流轉
暫時相賞莫相違

ア 五言絶句（五字×四句）

イ 七言絶句（七字×四句）

ウ 五言律詩（五字×八句）

エ 七言律詩（七字×八句）

▶ 答え：エ 七字×八句で七言律詩。（曲江・杜甫）書き下し「酒債は尋常行く処に有り、人生七十古来稀なり」＝酒のつけは行く先々にあるものだが、人生七十まで生きる人は昔から稀だ。七十歳を「古稀」というのはこの句から。

押韻 Q82. 次の漢詩で韻を踏んでいる字を、すべて正しく挙げたものを後のア～ウから選べ。

昔聞洞庭水
今上岳陽樓
吳楚東南坼
乾坤日夜浮
親朋無一字
老病有孤舟
戎馬関山北
憑軒涕泗流

ア 水・樓・浮・流

イ 樓・浮・舟・北

ウ 樓・浮・舟・流

▶ 答え：ウ 登岳陽樓（杜甫・五言律詩）。偶数句末（第二・四・六・八句）の樓・浮・舟・流が韻字。第一句末「水」・第七句末「北」は韻を踏まない。書き下し「昔聞く洞庭の水、今上る岳陽樓」＝昔から洞庭湖のことは聞いていたが、今その湖をのぞむ岳陽樓に上った。

対句 Q83. 次の漢詩で対句になっている句の組み合わせを、後のア〜ウから選べ。

還来就菊花 待到重陽日 把酒話桑麻 開軒面場圃 青山郭外斜 綠樹村辺合 邀我至田家 故人具鷄黍

ア 第七・八句のみ

イ 第三・四句と第五・六句

ウ 対句はない

▶ 答え：イ 過故人莊（孟浩然・五言律詩）。頷聯（綠樹村辺合／青山郭外斜）と頸聯（開軒面場圃／把酒話桑麻）が対句。書き下し「綠樹村辺に合し、青山郭外に斜めなり」＝「綠樹」と「青山」、「村辺」と「郭外」、「合」と「斜」が対応する。律詩の原則どおりの形。

内容 Q84. 次の漢詩の主題・内容として最も適切なものを、後のア〜ウから選べ。

風急天高猿嘯哀 渚清沙白鳥飛回 無辺落木蕭蕭下 不尽長江滾滾来 万里悲秋常作客 百年多病独登台 艱難苦恨繁霜鬢 潦倒新停濁酒杯

ア 秋の高台で、老いと孤独・人生の苦渋を詠む

イ 若き日の旅の喜び

ウ 戦に勝った高揚

▶ 答え：ア 登高。「万里悲秋常に客と作り、百年多病独り台に登る」。晩年の杜甫の悲愁。

句の名称 Q85. 第一・二句のまとまりの呼び名を選べ。

憑軒涕泗流
戎馬関山北
老病有孤舟
親朋無一字
乾坤日夜浮
吳楚東南坼
今上岳陽樓
昔聞洞庭水

ア 第一・二句＝頸聯

イ 第一・二句＝尾聯

ウ 第一・二句＝首聯

▶ 答え：ウ 律詩の第一・二句は首聯（詩の書き出し）。第三・四句が頸聯、第五・六句が頸聯、第七・八句が尾聯。（登岳陽樓・杜甫）

押韻 Q86. 次の漢詩で韻を踏んでいる字を、すべて正しく挙げたものを後のア～ウから選べ。

岐王宅裏尋常見
崔九堂前幾度聞
正是江南好風景
落花時節又逢君

ア 聞・君

イ 聞・景・君

ウ 見・聞・君

▶ 答え：ア 江南逢李龜年（杜甫・七言絶句）。第二句末「聞」・第四句末「君」で押韻。第一句末「見」は韻を踏まない（七言は第一句末も踏むことが多いが、踏まない詩もある）。書き下し「正に是れ江南の好風景」＝ちょうど江南の景色が美しい時（花の散るころに、また君に会った）。

きまり Q87. 漢詩のきまりについて、正しいものを後のア～ウ（エ）から選べ。

ア 絶句・律詩とも「首・頤・頸・尾」という

イ 絶句を「序・破・急」、律詩を「起・承・転・結」という

ウ 絶句の構成を「起・承・転・結」、律詩の四聯を首・頷・頸・尾という

▶ 答え：ウ 絶句＝起句・承句・転句・結句。律詩＝首聯・頷聯・頸聯・尾聯。混同しないこと。

内容 Q88. 次の漢詩の主題・内容として最も適切なものを、後のア～ウから選べ。

寒雨連江夜入吳
平明送客楚山孤
洛陽親友如相問
一片冰心在玉壺

ア 戦地へ向かう勇氣

イ 故郷の春をなつかしむ

ウ 旅立つ友を見送り、洛陽の親友に自分の心は清らかなままだと伝えてほしいと託す

▶ 答え：ウ 芙蓉楼送辛漸（王昌齡・七言絶句）。冷たい雨が夜のうちに降った、その明け方に、洛陽へ向かう友の辛漸を見送る。書き下し「洛陽の親友如し相問はば」＝洛陽の親友がもし私のことを尋ねたら、「一片の氷心玉壺に在り」（玉の壺の中の氷のように、私の心は清らかなままだ）と答えてくれ、と託す。

対句 Q89. 次の漢詩で対句になっている句の組み合わせを、後のア～ウから選べ。

細草微風岸
危檣独夜舟
星垂平野闊
月湧大江流
名豈文章著
官応老病休
飄飄何所似
天地一沙鷗

ア 第一・二句は対句でない

イ 第一・二句も対句になっている

ウ 律詩に對句はない

▶ 答え：イ 旅夜書懷（杜甫・五言律詩）。首聯も對句で、書き下し「細草微風の岸、危檣独夜の舟」＝「細草」と「危檣」、「微風」と「独夜」、「岸」と「舟」が対応する。頷聯（星垂平野闊／月湧大江流）・頸聯（名豈文章著／官応老病休）も對句。律詩の對句は頷聯・頸聯が原則だが、首聯まで對句にする詩も少なくない（登高は尾聯まで對句の全篇對句）。

押韻 Q90. 次の漢詩で韻を踏んでいる字を、すべて正しく挙げたものを後のア～ウから選べ。

飛入尋常百姓家
旧時王謝堂前燕
烏衣巷口夕陽斜
朱雀橋辺野草花

ア 花・斜・家

イ 花・燕・家

ウ 辺・口・前

▶ 答え：ア 烏衣巷（劉禹錫・七言絶句）。第一・二・四句末の花・斜・家が韻字（七言の首句入韻）。第三句末「燕」は韻を踏まない。書き下し「朱雀橋辺野草の花、烏衣巷口夕陽斜めなり」＝朱雀橋のほとりには野の草が花をつけ、烏衣巷の入り口には夕日が斜めにさす。

詩型 Q91. 次の漢詩の形式（詩型）として正しいものを、後のア～エから選べ。

都護在燕然
蕭關逢候騎
長河落日圓
大漠孤煙直
歸雁入胡天
征蓬出漢塞
屬國過居延
單車欲問邊

ア 五言絶句（五字×四句）

イ 七言絶句（七字×四句）

ウ 五言律詩（五字×八句）

エ 七言律詩（七字×八句）

▶ 答え：ウ 五字×八句で五言律詩。（使至塞上・王維）書き下し「大漠孤煙直く、長河落日円かなり」＝大砂漠に一すじの煙がまっすぐ立ちのぼり、長い大河に沈む夕日がまるい。

句の名称 Q92. 次の漢詩の第三句の説明として正しいものを、後のア～ウから選べ。

多少楼台煙雨中
南朝四百八十寺
水村山郭酒旗風
千里鶯啼緑映紅

ア 第三句＝起句で詩を起こす

イ 第三句＝結句で締める

ウ 第三句＝転句で、場面や視点が転じる

▶ 答え：ウ 絶句の第三句（転句）は内容を転じる要。江南春（杜牧）では、第一・二句の今の春景色から、第三句「南朝四百八十寺」で昔の南朝の寺々へと視点が転じる。書き下し「南朝四百八十寺、多少の楼台煙雨の中」＝南朝の世に建てられた四百八十もの寺、その数多くの楼台が春雨にけむっている。

内容 Q93. 次の漢詩の主題・内容として最も適切なものを、後のア～ウから選べ。

蕭蕭班馬鳴
揮手自茲去
落日故人情
浮雲遊子意
孤蓬万里征
此地一為別
白水遶東城
青山橫北郭

ア 戦の決意

イ 友との別れに、漂う雲と沈む日を重ねて惜しむ

ウ 都での出世

▶ 答え：イ 送友人。「浮雲遊子の意、落日故人の情」＝旅ゆく友の心を浮雲に、別れを惜しむ情を落日に重ねる。

押韻 Q94. 次の漢詩で韻を踏んでいる字を、すべて正しく挙げたものを後のア～ウから選べ。

峨眉山月半輪秋
影入平羌江水流
夜發清溪向三峽
思君不見下渝州

ア 月・水・君

イ 秋・峽・州

ウ 秋・流・州

▶ 答え：ウ 峨眉山月歌（李白・七言絶句）。第一・二・四句末の秋・流・州が韻字（七言の首句入韻）。第三句末「峽」は韻を踏まない。書き下し「峨眉山月半輪の秋」＝峨眉山にかかる、秋の半月。

詩型 Q95. 次の漢詩の形式（詩型）として正しいものを、後のア～エから選べ。

独憐幽草澗辺生
上有黄鸝深樹鳴
春潮帶雨晚來急
野渡無人舟自橫

ア 五言絶句（五字×四句）

イ 七言絶句（七字×四句）

ウ 五言律詩（五字×八句）

エ 七言律詩（七字×八句）

▶ 答え：イ 七字×四句で七言絶句。（滁州西澗・韋応物）書き下し「独り憐れむ幽草の澗辺に生ずるを」＝谷川のほとりにひっそりと生える草を、ひとりいとおしく思う。

対句 Q96. 次の漢詩で対句になっている句の組み合わせを、後のア～ウから選べ。

城闕輔三秦
風煙望五津
與君離別意
同是宦遊人
海内存知己
天涯若比隣
無為在岐路
兒女共沾巾

ア 第一・二句と第五・六句

イ 第三・四句と第五・六句

ウ 対句はない

▶ 答え：ア 送杜少府之任蜀州（王勃・五言律詩）。首聯（城闕輔三秦／風煙望五津）と頸聯（海内存知己／天涯若比隣）が対句。頷聯は書き下し「君と離別の意、同じく是れ宦遊の人」で、二句の語が対応せず対句ではない。律詩の原則（頷聯・頸聯が対句）とちがひ、首聯を対句にして頷聯を対句にしない形を「儉春格（とうしゅんかく）」という。

内容 Q97. 次の漢詩の主題・内容として最も適切なものを、後のア～ウから選べ。

白髮三千丈
緣愁似箇長
不知明鏡裏
何處得秋霜

ア 愁いのためにこれほど長くなったと白髪を大げさに言い、老いを嘆く

イ 別れの悲しみ

ウ 夜の静けさ

▶ 答え：ア 秋浦歌（李白・五言絶句）。書き下し「白髪三千丈」＝白髪が三千丈にもなった、という大げさな誇張。愁いのためにこんなに長くなったと言い、鏡に映る白髪を「秋霜」（秋の霜）にたとえて老いを嘆く。

句の名称 **Q98.** 次の漢詩の第一句と第四句の呼び名として正しいものを、後のア～ウから選べ。

独在異鄉為異客
每逢佳節倍思親
遙知兄弟登高處
遍插茱萸少一人

ア 聯で数える

イ 第一句＝結句、第四句＝起句

ウ 第一句＝起句、第四句＝結句

▶ 答え：ウ 絶句は起・承・転・結。九月九日憶山東兄弟も第一句が起句、第四句が結句。

詩型 **Q99.** 次の漢詩の形式（詩型）として正しいものを、後のア～エから選べ。

春城無處不飛花
寒食東風御柳斜
日暮漢宮傳蠟燭
輕煙散入五侯家

ア 五言絶句（五字×四句）

イ 七言絶句（七字×四句）

ウ 五言律詩（五字×八句）

エ 七言律詩（七字×八句）

▶ 答え：イ 七字×四句で七言絶句。（寒食・韓翃）書き下し「寒食東風御柳斜めなり」＝寒食の日、春風に吹かれて宮中の柳が斜めになびく。

きまり **Q100.** 漢詩のきまりについて、正しいものを後のア～ウ（エ）から選べ。

ア 押韻・対句・句数のきまりを持つ唐代以降の詩を近体詩という

イ 近体詩には字数や句数のきまりがない

ウ 絶句は八句、律詩は四句である

▶ 答え：ア 唐代に整った、句数・押韻・対句などの規則を持つ詩が近体詩（絶句・律詩）。規則のゆるやかな詩は古体詩。
